

Medical Technology News

臨床検査室新聞

マスクのしぼり?

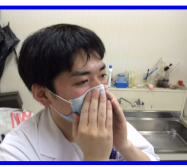
これを見て 正しくマスクを 付けてみて 検査室S

院内放送で「予防の為、マスクを付けましょう」と繰り返し聞かれる時期ですが、みなさん！マスクを正しく付けていますか？

マスクは花粉対策や風邪、インフルエンザなどの感染予防の為。また、もし感染してしまつた時には家族や他の人への拡散予防に活用されています。しかし、マスクはただ付けるだけでは意味がないのです。正しく付けてこそ効果を発揮します。

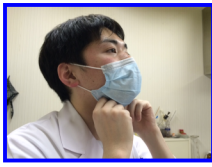
そこで今回は、マスクの正しい付け方のポイントをまとめてみました。
*写真のモデルは「あま〜いマスク」でおなじみの検査室T君にお願ひしました。僕もやりたかった・・・検査室S

ポイント① 鼻まわりの確認



マスクを付けたらワイヤーを鼻の形に合わせて曲げ、隙間ができないようにしましょう。隙間があることでマスクは正しく機能しなくなってしまう。

ポイント② 顎まわりの確認



折れ目（フリット）を広げ、顎が隠れるように付けます。顎が隠れない場合はサイズを変えましょう。また、折れ目（フリット）を広げすぎて頬まわりに隙間ができてしまうことがあるので広げすぎないように注意しましょう。

ポイント③ 隙間がないかの最終確認



これであなたもマスクの達人です。

2015年 3月
第57号
発行元 八雲総合病院
臨床検査室



LOOK



赤血球沈降速度 (ESR)

赤血球沈降速度は、略して「赤沈」または「血沈」とも呼ばれ、採血した血液を専用の採血管に入れ、赤血球が下に沈む速度を調べる検査です。血液成分の異常や炎症など、異常があると異常値を示すことから、各種疾患のスクリーニング検査に利用されます。

赤沈は男女で異なり、男性で2~10mm/時間、女性で3~15mm/時間の範囲を基準にしますが、20mm/時間以内であればそれほど問題ないとされます。ただし、1mm/時間以下の低値や20mm/時間以上の高値は、なんらかの異常が疑われるので、精密検査によって原因を究明する必要があります。

赤沈の変動は、一般的に血液中の蛋白質（各種のグロブリン）量が増えると、血球が凝集しやすくなって沈降速度が亢進します。女性などには、軽い貧血や生理時、妊娠後期などに血球量が減少すると、沈降の亢進がみられます。なお、アルブミンが増加すると、沈降速度は遅延する傾向があります。

高値（亢進）を示す疾患

扁桃炎、肺炎などの炎症性疾患、結核などの細菌感染、心筋梗塞、高度貧血、膠原病、悪性腫瘍など

低値（遅延）を示す疾患

DIC、多血症、慢性肝炎など

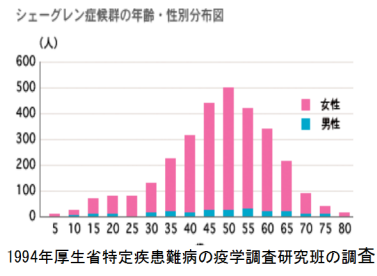


チェック！ シェーグレン症候群

シェーグレン症候群は、唾液腺・涙腺などの外分泌腺の自己免疫的な慢性炎症を主病変とする疾患です。発症は50歳代にピークが有りますが、少数ながら子供から80歳の老人まで発症します。

自分の身体の細胞や組織を異物とみなし、攻撃する抗体やリンパ球ができておきる疾患です。遺伝的要因、ウイルスなどの環境要因、免疫異常、更に女性ホルモンの要因が考えられます。これらの四つの要因が複雑に関連し合って発症すると考えられ、どれか一つの原因によるものでは有りません。
〈主な症状〉
①目の乾燥（ドライアイ）
②口の乾燥（ドライマウス）
③鼻腔の乾燥
④その他

す。（下図）男女比は一对十四と女性多い疾患です。原発性シェーグレン症候群と関節リウマチなどの膠原病に合併する二次性シェーグレン症候群があります。厚生労働省研究班のデータでは、一年間に病院などを受療した患者さんは一



ほと time

日が段々と長くなり始めて、寒さも厳しさが和らいできたように思います。「雪が解けたらドライブに行こう！」と思い続けているせいか、春が待ち遠しいです。みなさんは雪が解けたら何をしますか？



カルシウム Ca

基準値 8.6~10.1mg/dl
〔低値を示す疾患〕
低アルブミン血症、慢性腎不全、副甲状腺機能低下症、ビタミンD欠乏症など
〔高値を示す疾患〕
原発性副甲状腺亢進症、悪性腫瘍、ビタミンD過剰症など



検査の基本

Caは生体中に最も多量に存在する無機物です。Caの90%以上は骨格を維持し、Caの貯蔵庫となります。Caの調節は副甲状腺ホルモンやビタミンDにより影響されます。

- ① 唾液腺生検
 - ② 唾液腺分泌量（カムテストなど）
 - ③ 涙の分泌量（シャーマテストなど）
 - ④ 血液検査ー抗SSA抗体
- 抗SSB抗体（外注検査）

編集後記

創刊6年で通算50号を超えたこの「臨床検査室新聞」を北海道医療新聞で取り上げて頂きました。医療従事者と患者様の双方が楽しめる新聞づくりをされていること、それによって臨床検査技師の認知度アップにつながりたいという私たちの思いが掲載されています。これを励みにもっともっとと楽しめる新聞を目指して頑張ります。

